

新書を読もう

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-10-21 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 膽吹, 覚 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10098/00028835

新書を読もう



福井大学語学センター日本語教育部

准教授 **膽吹 覚**

IBUKI Satoru

生年：1967年 出身：滋賀県
 専門：書誌学・図書館史、日本文学
 好き：ミステリーとホラー
 苦手：高いところ

本学総合図書館3階、閲覧室の南西の壁一面にずらりと新書が配架されている。新書は縦17.3cm、横10.5cmの縦長の大きさの書籍、及びその叢書のことである。概して新書は現代の研究者・作家が**現代的な問題を取り上げて、それを平易な言葉で解説したものが多い**。このために新書は高校生や大学生の課題図書にしばしば選定される。本学の図書館に新書が多く架蔵されているのもそのためである。

日本の新書の歴史は**岩波新書**(岩波書店)から始まる。岩波新書の刊行は昭和13年(1938)11月であった。日本はこの年の5月に国家総動員法が施行され、12月には日本軍が中国の重慶への爆撃を開始した。岩波書店社長の岩波茂雄は、こうした社会情勢を踏まえて、「岩波新書を刊行するに際して」と題した小文で「武力日本と相並んで文化日本を世界に躍進せしむべく努力せねばならぬことを痛感し、「今ここに現代人の現代的教養を目的として岩波新書を刊行せんとする」と宣言している。岩波新書が「現代的教養」を目的としたことは、同社の岩波文庫が「古典的価値ある書」の普及を目指したのとは対照的である。そして、この「現代的教養」が、その後、日本で相次いで刊行される新書に通底するキーワードとなる。小林勇『惜椽荘主人——1つの岩波茂雄伝——』(講談社文芸文庫)に拠ると、岩波新書について茂雄は「(岩波)文庫は古典だ。今度のやつ(岩波新書)は今の問題を、今の人に書いてもらうのだ。大体寿命はあまり長なくてよい。生き生きとした問題をつかまえるのだ」(p234)と熱く語っていたという。茂雄の「寿命はあまり長なくてよい」「生き生きとした問題をつかまえる」と

いう言葉は、今日の新書が持つ特性をすでに規定していたといえるだろう。

このように新書は、その時代に必要とされる教養、言い換えればその時代の現代的課題が反映されている。2020年は新型コロナウイルス感染が現代的課題となった。2020年から2021年にかけて出版される新書は、この問題を扱ったものが相次ぐであろう。

さて、本学総合図書館には岩波新書をはじめ、**中公新書**、**講談社現代新書**、**講談社BLUE BACKS**、**丸善ライブラリー**、**ちくまプリマー新書**などが配架されている。以下、各新書の特徴と私がお勧めする本をいくつか紹介しておこう。

岩波新書は新書の老舗だけあって、幅広いジャンルの書籍が揃っている。近刊本から選んでみると、増井元『辞書の仕事』(2013)は『広辞苑』の編集に携わった編集者による**辞書作りの現場**が描かれていて興味深い。田中宏『在日外国人』(2013、第3版)は外国人学校をめぐる諸問題が取り上げられており、**教育学部・国際地域学部の学生**には一読をお勧めする。中野三敏『和本のすすめ』(2011)は和本(和紙で作られた本)の歴史や作り方、出版事情などを説いたもの。**書物に興味のある方**にお勧めです。小長谷正明『医学探偵の歴史事件簿』(2014)は歴史上の人物や事件を病氣(医学)の視点から推理したもので、**医学と歴史学の取り合わせの妙味**が楽しめる1冊である。一風変わったものに『**岩波新書解説総目録1938-2019**』(2020)がある。本書はその書名のとおり、1938年から2019年までに出版された岩

波新書の目録である。この目録に記載された書名を年代順に見ていくと、その間の**日本の現代的課題の変遷**を把握することができる。出版社が刊行する書籍目録は味気のないものの代表のように考えている人もいるようだが、しかし、それは見方によってはたいへん興味深い読み物なのである。

中公新書(中央公論社)創刊は岩波新書に次いで古く、昭和37年(1962)であった。中公新書も岩波新書と同様に幅広いジャンルにわたるが、特に**歴史学(文化史)**に注目すべき本が多い。最近では呉座勇一『**応仁の乱**』(2016)が**ベストセラー**になったことはご存知の方も多であろう。本田良一『**イワシはどこへ消えたのか**』(2009)は**Regime shift**を分かりやすく説いたもので、地球環境と経済活動の関係を考察した本である。また井上栄『**感染症**』(2006)は**感染症全般に関する入門書**で、新型コロナウイルス感染防止を考える上で有益な書である。本書は2020年4月に新型コロナウイルスに関する章を加筆して、増補版として刊行されている。このように現代的課題と合致する場合は、既刊本を増補・改訂して出版されることがある。

講談社現代新書は昭和39年(1964)に創刊された。講談社現代新書は**現代思想**、**心理学**、**サブカルチャー**に関するものが多い。近刊本では佐藤健太郎『**ふしぎな国道**』(2014)が抜群に面白い。鉄道マニアならぬ国道マニアによる、**これぞサブカル**と唸らせる1冊である。三中信宏『**分類思考の世界**』(2009)は生物系統学の本であるが、哲学的な示唆に富んだ1冊である。生物学に関する話題が読者の脳内でいつしか**哲学的課題へと移行**してしまう。野本陽子『**ハッブル望遠鏡 宇宙の謎に挑む**』(2009)は美しい写真(カラー)を見るだけでも十分価値がある。ハッブル望遠鏡は地球上空の軌道を周回する**宇宙望遠鏡**である。

講談社BLUE BACKSは**自然科学に特化**した新書である。〈マンガ〉シリーズや〈教科書〉シリーズなどは、**科学が苦手な人**にこそ読んでほしい。また宮野公樹『**研究発表のためのスライドデザイン**』(2013)はゼミや学会でのプレゼンテーションに有益な本であり、**みなさんに是非読んでいただきたい**。なお、畔上道雄『**推理小説を科学する**』(1983)はEdgar Allan Poeや松本清張など

の推理小説で使われている**トリック**(いわゆる密室や不可能犯罪など)を**科学的に検証**したもので、ミステリー・マニアにはよく知られた1冊である。

ここで**〈新書大賞2020〉**(中央公論社主催)に輝いた**トップ5**を紹介しておこう。未読の方にはこちらも一読をお勧めする。

- 大賞：大木毅『**独ソ戦**』(岩波新書)
- 2位：宮口幸治『**ケーキの切れない非行少年たち**』(新潮新書)
- 3位：松岡亮二『**教育格差**』(ちくま新書)
- 4位：小熊英二『**日本社会のしくみ**』(講談社現代新書)
- 5位：山口慎太郎『**家族の幸せの経済学**』(光文社新書)

最後に新書の使い方について一言述べておきたい。冒頭で述べた通り、新書はいわゆる概説書であり、入門書である。ゆえに学生諸君には、新書は専門書への入り口であるとして読んでほしい。新書の巻末には必ず**参考文献一覧**が付録されている。1冊の新書を読み終えたなら、そこで満足するのではなく、巻末の参考文献の中から次の1冊を選び、より専門的な知識を学んでほしい。**新書とは学問の入り口であり、次のステージへの架け橋なのである。**

